



# 最上エコポリス通信

— mogami ecopolis tsushin —

2021年4月号  
山形県最上総合支庁



## 最上総合支庁長就任のごあいさつ

令和2年度は、年度初めから最上管内で新型コロナウイルス感染症の感染者が発生し、また、夏には豪雨、冬には大雪による被害が発生するなど、皆様の生活と地域経済にとって厳しい1年となりました。

今年度は、感染症拡大防止のための様々な取り組みに加え、救世主とも言える新型コロナウイルスワクチン接種が始まり、コロナ禍から抜け出し、通常の市民生活を取り戻すための具体的な取り組みがスタートします。

私は、最上総合支庁に赴任した際に、最上地域は、豊かな自然、それを活かした農林業をはじめとする産業、長い歴史を持つ文化、温かい人柄と魅力的な資源に恵まれた地域であると伺いました。これらの特長を活かし、ポストコロナに向けた変革と活力ある最上地域の実現に向け、地域の皆様や8市町村の方々と連携し、全力で取り組んでまいります。

よろしくお願ひいたします。



最上総合支庁長  
加藤 亮

## オール最上で企業支援・人材確保

[地域産業経済課  
29-1306]

3月9日、最上総合支庁と鶴岡工業高等専門学校は、最上地域における企業の技術革新や若者定着、人材確保などの課題に共に対応していくため、「最上地域における企業の技術革新及び人材確保並びに最上地域出身者の地元定着の促進に関する協定」を締結しました。橋本最上総合支庁長と同校の高橋校長による協定締結後には、高橋校長と上條地域連携センター長による協定締結記念講演会をオンライン配信により行い、地域の企業の皆様などから幅広くご視聴いただきました。

このたびの協定は、最上地域の企業、商工団体、市町村の皆様などと共に、地域全体として同校との連携を図っていくことを明確にした「オール最上」による連携協定です。

この協定締結を機に、最上地域のより一層の産業振興や、若者の地元定着・人材確保に関する取り組みを進めてまいります。

山形県最上総合支庁・鶴岡工業高等専門学校 協定締結式



## 看護職の交流会inカフェ

[保健企画課  
29-1257]

3月17日、新庄市のおやさい café AOMUSHI を会場に、「ナスカフェ（新規採用看護職の交流会）」を開催しました。

病院、施設の枠を超え、それぞれ属している環境や業務内容、悩み等を情報交換することができました。参加者からは、「和やかでとても楽しく過ごさせていただきました」「このような機会での仲間意識がモチベーションの維持につながると感じました」「是非また参加させていただきたいです」などの感想をいただきました。

このナスカフェは、今年度も開催予定です。新規採用看護職の方の参加を心よりお待ちしております！



## 地産地消等優良活動表彰 東北農政局長賞

最上総合支庁内食堂「お食事処千起」が、東北農政局が主催する令和2年度地産地消等優良活動表彰において東北農政局長賞を受賞しました。最上地域の農畜産物を使用した地産地消定食を定期的に提供している点や、規格外農産物を積極的に使用している点などが高く評価されました。

千起では最上地域の「うまいもの」を味わうことができますので、ぜひお立ち寄りください。



[農業振興課 29-1317]

## 県産米食味コンクール 県知事賞受賞

新庄市萩野の中川和幸さんは、稲作と畜産の複合経営をされていて、自家製の堆肥を田んぼの土づくりに活用しています。昨年の夏は酷暑で、品質や食味低下が心配されましたが、細やかな水管理と日頃の土づくりの成果が県食味コンクールの最高賞受賞という形で実りました。

中川さんは、この受賞を励みに気象変動に負けないおいしい米を作り続けたいと語ってくださいました。



[農業技術普及課 29-1331]

## 最上地域農林水産業若者賞

農事組合法人オークファームの阿部慎吾さん（鮭川村）、農業法人ムラサキ農産の八鍬和泉さん（舟形町）が表彰されました。阿部さんは、品質の高いきのこ生産を行い地域の若手生産者の中心としても活躍されている点、八鍬さんは高品質・高収量のネギ生産を行い、県JA女性組織「フレッシュミズ部会」の会長としても活躍されている点が高く評価されました。



[地域産業経済課 29-1307]

## エコエリアやまがた推進コンクール 優秀賞

県立農林大学校がエコエリアやまがた推進コンクールで優秀賞（山形県農業協同組合中央会長賞）を受賞しました。農林大学校はGAPの知識習得に関するカリキュラムを取り入れ、GAPの考えに基づいた取組みを実践しています。また、畜産研究所で生産された堆肥を校内の水田に投入するなど、環境にやさしい農業を積極的に推進し、環境保全型農業を実践できる人材を育成している点も評価されました。



[農業振興課 29-1317]

## 産・学・官・金の連携と異業種間の企業交流

[地域産業経済課 29-1309]

3月18日、「第34回もがみイブニングサロン」を開催しました。当サロンは、最上地域の企業間の交流、情報交換を目的に、平成19年から開催しているものです。今回は初めてZoomを使い、オンライン開催としましたが、地元の様々な事業所や商工団体、管内市町村から、約30名がご参加くださいました。

「ニューノーマル時代に対応したビジネス」をテーマに、株式会社新庄丸果青果、株式会社ヌマザワ、株式会社JPDの3社から事例発表いただきました。新型コロナウイルス感染症に負けず新しいチャレンジをしている3社からのお話は、地元企業の皆さんにとっても刺激になったようです。

業種や地域の枠を超えたネットワークづくりや、地元企業の持続的な発展・成長を支援していくため、今年度もイブニングサロンを開催してまいります。



地域の小中学生に医療職・介護職に関心を持ってもらうきっかけづくりのため、「進路を考える学習会～めざせ医療・介護のしごと～」と題し、3月2日に萩野学園で看護師・薬剤師・介護福祉士の体験授業、3月3日に明倫中学校で医師・看護師・薬剤師・理学療法士の体験授業を行いました。

事前に受け取った質問をもとに、仕事選びのきっかけや仕事内容、仕事のやりがいなどを講師から説明いただいた後、それぞれの仕事を体験しました。参加した生徒からは「普段できないような体験ができて勉強になった」などの感想が聞かれ、また「仕事の一つ一つにやりがいがあると感じた。もっと調べていきたい」と医療・介護の仕事に興味を持った生徒もいるようでした。

この学習会は、今年度も管内小中学校を会場に開催することになっています。県として、最上地域の医療人材・介護人材の確保に取り組んでまいります。



## 広葉樹の新たな可能性を体験 [森づくり推進室 29-1350]

3月2日、新庄市雪の里情報館において、森づくり体験の指導者等を対象に「木の香るふれあいセミナー」を開催し、30名が参加しました。

最上地域に豊富に存在するブナ、ナラなどの広葉樹資源の実態を学びました。その後のワークショップでは、木の箸や木製ペンダントづくりを行い、広葉樹材の利活用の一例を実体験しました。



## ドローンを有効活用 [産地研究室 22-2201]

この冬は大雪で、果樹園で枝折れ等の雪害が発生しました。雪害軽減のためには融雪剤の散布が有効ですが、作業が大変なためあまり行われていません。産地研究室では、省力化に向けドローンを使った融雪剤の散布技術開発に取り組んでおり、3月2日にJA職員や普及指導員を対象とした研修会を開催しました。

今後は、果樹園場での実証試験や生産者を対象とした研修を行い、迅速な普及に取り組んでまいります。



### ・ information ・



#### 東北デステーションキャンペーン

- 期間：4月1日（木）～9月30日（木）
- 詳細はこちら⇒ <https://www.tohokukanko.jp/dc/>



#### 最上の魅力を再発見！いいにや～もがみ！泊まって・めぐるキャンペーン

東北DC・最上三十三観音御開帳に合わせ、管内宿泊施設等の利用を促進するキャンペーン。最上産山形牛・地酒詰合せや最上地域の特産品を60名の方にプレゼント！

- 期間：4月16日（金）～10月31日（日）
- 応募〆切：10月31日（日） [観光振興室 29-1312]

#### 東北の「へそ」オススメ観光スポット

東北の中心に位置する秋田県雄勝地域、宮城県大崎地域、山形県最上地域の魅力をぎゅっとまとめた観光ガイドブックを発行しました。近隣圏の楽しいスポットを見つけてください！



[観光振興室 29-1311]

▶発行日：令和3年4月15日

▶発行元：山形県最上総合支庁総務企画部総務課

総合案内窓口

▶電話：0233-29-1360 ▶FAX：0233-23-2605



Twitter @shinjo\_mogami



HP



## 最上地域の 現在の注意・警戒レベルは「レベル3(警戒)」です [R3. 4. 14 現在]

県内では3月中旬以降、飲食店でのクラスターなど感染が急拡大し、12月の第2波を超えるスピードで感染者が増加しています。そのため、山形県では3月22日に県独自の緊急事態宣言を発出し、山形市については4月25日まで延長して対策に取り組んでいます。県内発生は累計1,200人を超え、連日2桁の新規感染者が確認されています。このような状況の中で、医療提供体制のひっ迫を防ぐためにも、1日でも早く感染拡大を抑える必要があります。

最上地域は「レベル3【警戒】」ですが、感染リスクは常にあることを意識し、『みなさんご自身を守るため』そして『大切な人を守るため』に引き続きご協力をお願いします。

### ① 県外への移動について

進学や就職など、新しい生活が始まる4月は人の流れが多くなることが予想されます。特にまん延防止等重点措置が適応されている地域との往来は、可能な限り控えてください。

また、3月まで緊急事態宣言の対象となっていた地域との往来は慎重にさせていただくとともに、新規感染者が増加している地域、感染力や重症化リスクが高いと言われる変異株が確認された地域との往来は十分に注意しましょう。

### ② 基本的な感染防止対策を徹底しましょう

感染リスクが『常に身の回りにある』という意識を持ち、マスクの正しい着用、こまめな手洗い・消毒、適切な換気、身体的距離の確保など、基本的な感染防止対策である「新しい生活様式」を実践しましょう。さらに、毎日の検温や健康観察も引き続き行いましょう。

### ③ 歓迎会やお花見などの行事について

歓迎会やお花見などについては、飲食を伴わない開催を検討してください。飲食を伴う場合には、「普段一緒にいる人と」「少人数・短時間で」「会話の際のマスク着用」「弁当やテイクアウトの活用」など感染リスクを下げる対策の徹底をお願いします。

### ④ 体調が悪い場合の対応について

発熱などの症状があるときは、かかりつけの医療機関や市町村相談窓口、または山形県受診相談センター（フリーダイヤル 0120-88-0006 24時間）に電話でご相談ください。

※感染拡大防止対策の重要な柱となるワクチン接種が県内でも始まりました。

接種は医療従事者から始まり、続いて高齢者、基礎疾患のある方の順になります。

詳しくは、お住まいの市町村からの連絡をお待ちください。[地域保健福祉課 29-1268]



## 『「コロナ差別ノー！宣言」県民運動(あったかハートリレープロジェクト)』

県では、コロナ禍にあっても安心して暮らすことができる地域社会づくりを進めていくことを目的として、新型コロナ感染者等への差別は行わない決意を表明するとともに、医療従事者や福祉サービス従事者などに感謝の思いを伝える「コロナ差別ノー！宣言」に多くの県民の皆様が賛同し、実践していただく県民運動を推進しております。

また、この取組みと併せて、暖色系のハートを「あったかハート」として、この県民運動のシンボルに位置づけ、活動の輪を広げ、つなげていく「あったかハートリレープロジェクト」を展開しております。

◆詳しくは下記県ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.yamagata.jp/090014/kenfuku/fukushi/chiikifukushisuishin/koronasabetsu.html>

